

文殊の知恵

中仙道 太郎

0:Ttile

1.Problem 革新的なアイデアとは？

- AIは、広範囲な知識や新しい気づきを素早く教えてくれる。
- しかし、ベクトルの範囲を外れた答えは出してくれない。
- 結局のところ、革新的なアイデアは人間の意思から生まれる。

2.Solution 革新的アイデアの対話システム

- AIとの対話システムは現在主流となっている
- 人間だけの会議システムも従来からある。
- AI+人間2人の三人での対話システムを提案。

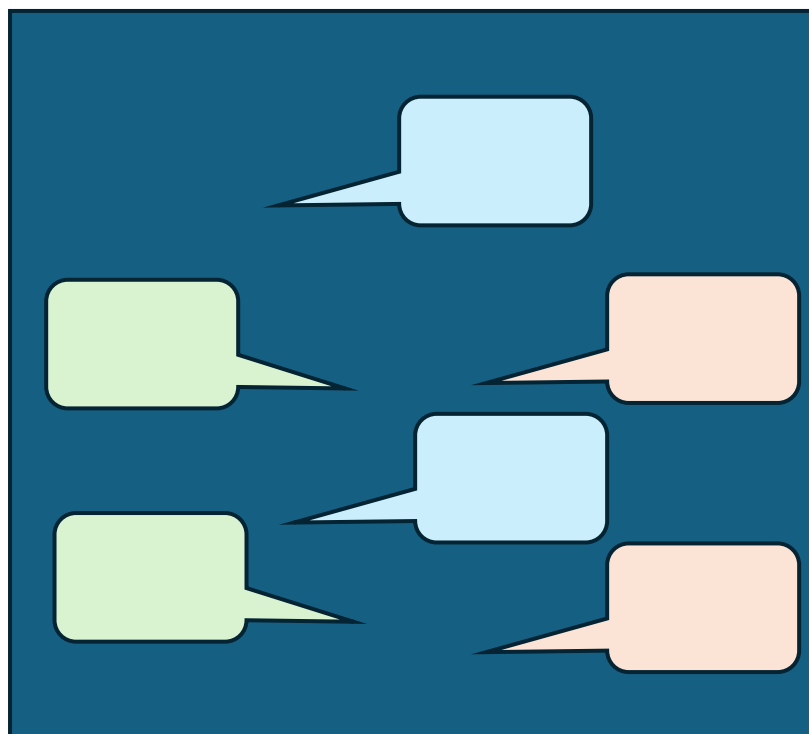
文殊の知恵

- 文殊とは文殊菩薩のこと。知恵を象徴する菩薩。
- 菩薩とは悟りを求めて人間を救うために修行を重ねる者。
- 凡人でも三人寄れば文殊の知恵となる。ここにAIを入れる。

システム



- ・ マッチングシステム
- ・ 報酬管理
- ・ AI変換
- ・ ログ管理



3. Market Size

- 当初はAIを使いこなして革新的なことをしたい人向け。
- スマホと意思と時間があれば誰でも参加可能。
- 予想もしなかった使い方ができる可能性もある。

4. Traction

- まず日本語で展開
- 自動翻訳などを組み込み
- 全世界の人とも交流し、アイデアを創っていける。

5. Unique Insight

- 夫婦間の問題など二人だけで解決が難しい課題にも使える。
- AI役の人間が答え、AIで変換したものを通知すると判別不可。
- AIによって仕事を奪われる人もいるが逆に仕事を創出できる。

Business Model

- 試用は無料。月額サブスク。
- AI役の人は、良い回答をすると報酬がアップしていく。
- 回答名人などには指名料などもあり。

7. Competition

- AI技術の革新が速く、すぐに代替技術が出てしまう可能性。
- 真似されてもっと良いものが登場する可能性。
- 既存GPTsでも十分となってしまう可能性。

8. Vision

- AIの力と人間の力を組み合わせ、真に革新的な世界を作る。
- 世の中の次々に発生する難しい課題も文殊の知恵で解決。
- AI時代の新しい雇用を創出。

9. Team

- 締切までにプロダクトの作成はマスト。
- AIを入れた3人でやりたい。
- というわけで、締切までに実装できる！したい！人を募集。

10. Use of funds

- 開発費と初期運用費 1億円
- 1年目、初期のアクティブなユーザーで1万人
- AI役の需要増加とさらなる機能、サービスを拡充で発展。

一緒にやりたい方、ぜひお声がけを！